

2023年2月9日

**【医療者対象ハイブリッドセミナー】**  
**もっと話そうがんと性（セクシュアリティ）のこと**  
**アンケート結果の報告**

2023年1月21日(土)開催いたしました表題セミナーのアンケート結果をご報告申し上げます。当日は、会場への来場者10名、オンライン視聴者181名の合計191名の方にご参加いただき、141名の方々からご意見を頂きました。

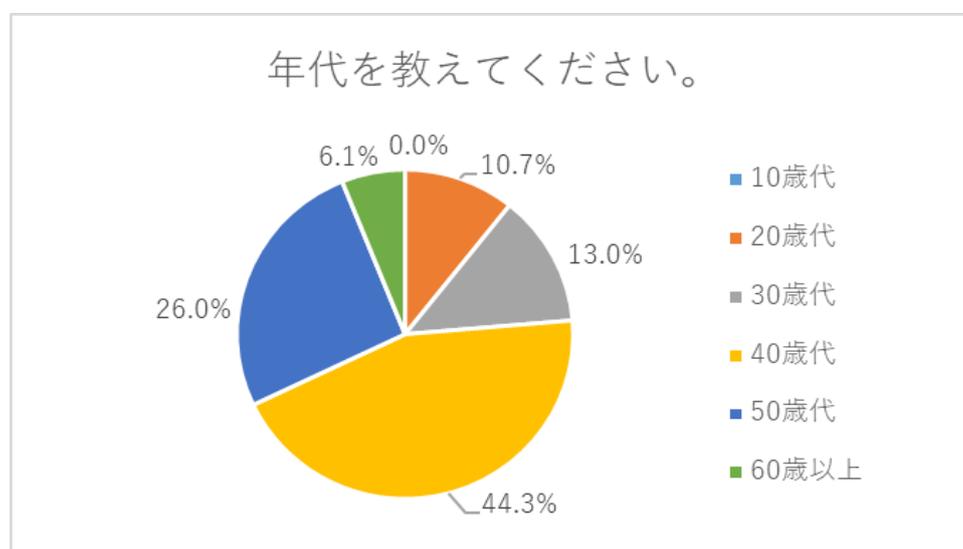
頂きましたコメントは、数が多いため重複する内容をまとめたり、一部抜粋したりして紹介しています。なお、判読が難しいもの、表記が適切でないものも含め、原則そのまま紹介しています。

なお、アンケート結果につきましては、学生を含む医療者(131名)よりお寄せいただいたものを公開しております。ご参加いただいたメディア関係者やピアサポーターからのものは含んでおりませんが、登壇者へは全てフィードバックさせていただきました。

たくさんコメントを頂きましたこと大変ありがたく、感謝申し上げます。

**(1) 年代を教えてください。(人数の列の単位：人)**

選択肢	人数	割合
10歳代	0	0.0%
20歳代	14	10.7%
30歳代	17	13.0%
40歳代	58	44.3%
50歳代	34	26.0%
60歳以上	8	6.1%



## (2) お住まいの都道府県を教えてください。(人数の列の単位：人)

県名	人数	割合	県名	人数	割合	県名	人数	割合
北海道	4	3.1%	神奈川県	5	3.8%	鳥取県	1	0.8%
青森県	1	0.8%	新潟県	4	3.1%	島根県	2	1.5%
岩手県	1	0.8%	石川県	9	6.9%	岡山県	1	0.8%
宮城県	2	1.5%	長野県	4	3.1%	広島県	3	2.3%
山形県	1	0.8%	岐阜県	2	1.5%	山口県	2	1.5%
福島県	2	1.5%	静岡県	1	0.8%	高知県	1	0.8%
茨城県	4	3.1%	愛知県	4	3.1%	福岡県	6	4.6%
栃木県	3	2.3%	三重県	2	1.5%	佐賀県	1	0.8%
群馬県	1	0.8%	京都府	6	4.6%	長崎県	1	0.8%
埼玉県	2	1.5%	大阪府	10	7.6%	大分県	5	3.8%
千葉県	4	3.1%	兵庫県	3	2.3%	鹿児島県	1	0.8%
東京都	29	22.1%	奈良県	1	0.8%	沖縄県	2	1.5%

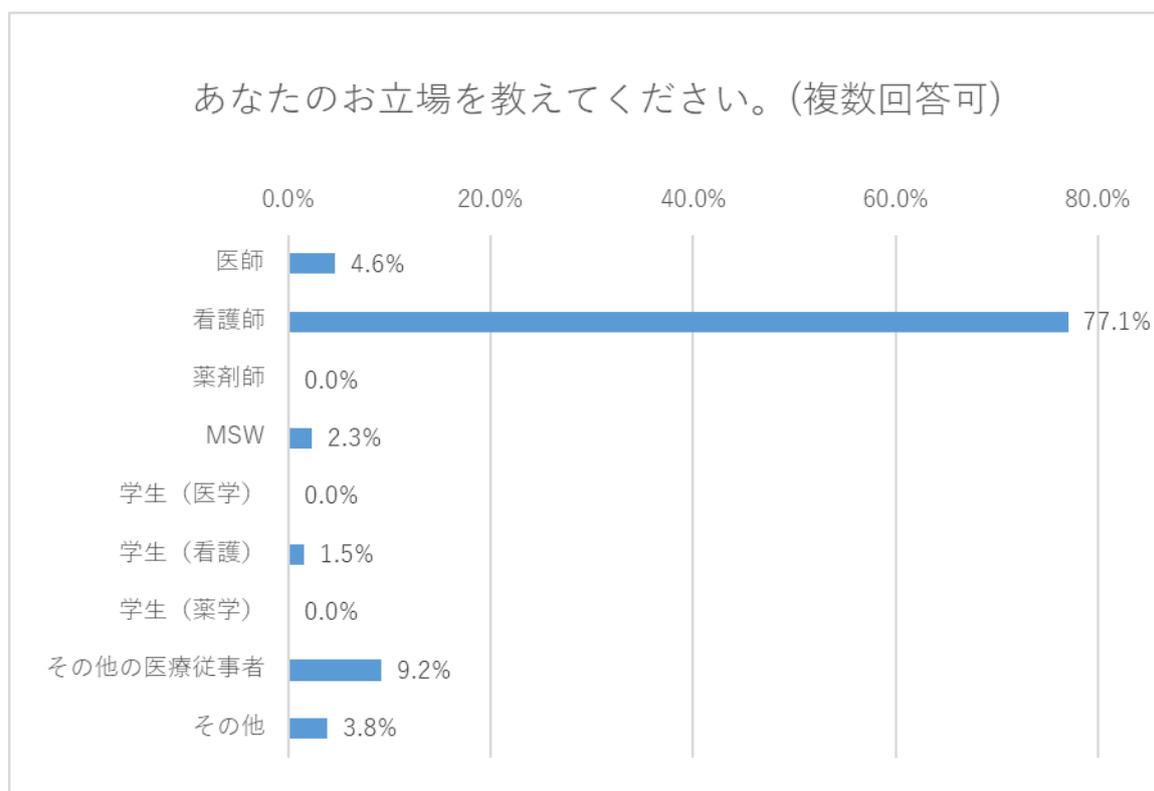
※参加者のいない都道府県は省略しています。

## (3) あなたのお立場を教えてください。(複数回答可) (人数の列の単位：人)

選択肢	人数	割合
医師	6	4.6%
看護師	101	77.1%
薬剤師	0	0.0%
MSW	3	2.3%
学生(医学)	0	0.0%
学生(看護)	2	1.5%
学生(薬学)	0	0.0%
その他の医療従事者	12	9.2%
その他	5	3.8%

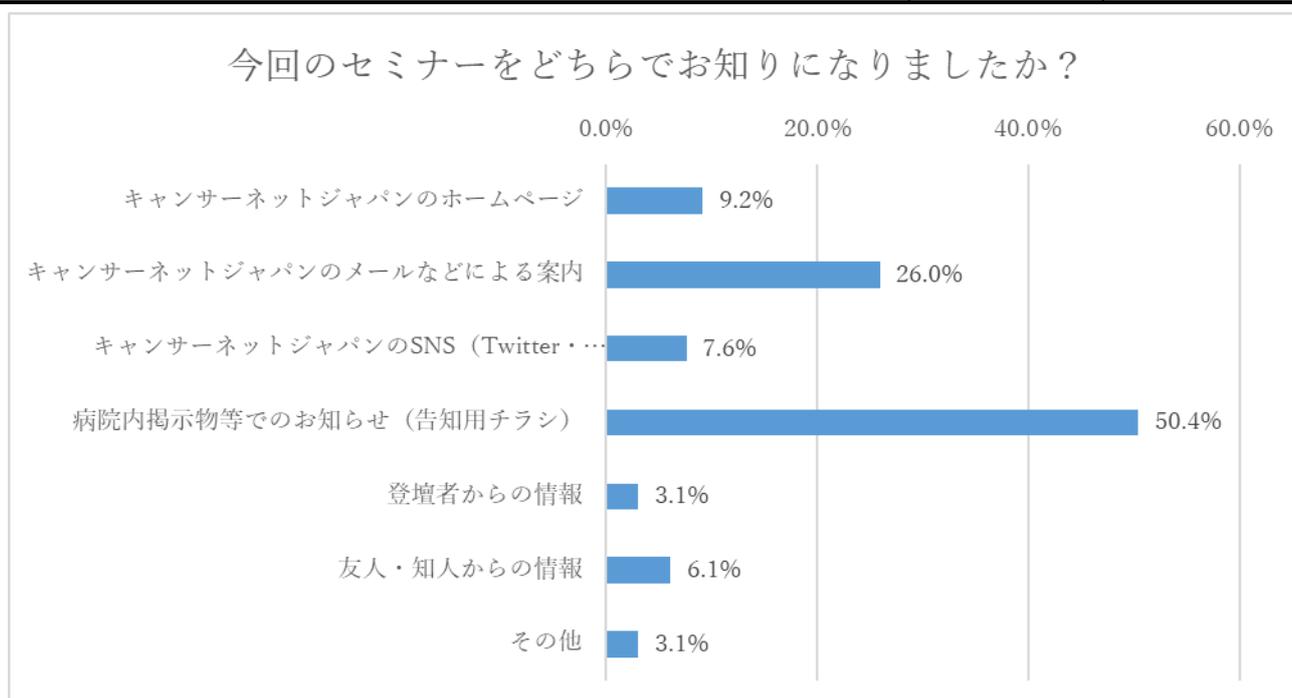
その他詳細

大学教員、がん専門相談員／保健師、認定遺伝カウンセラー、心理関係の学生



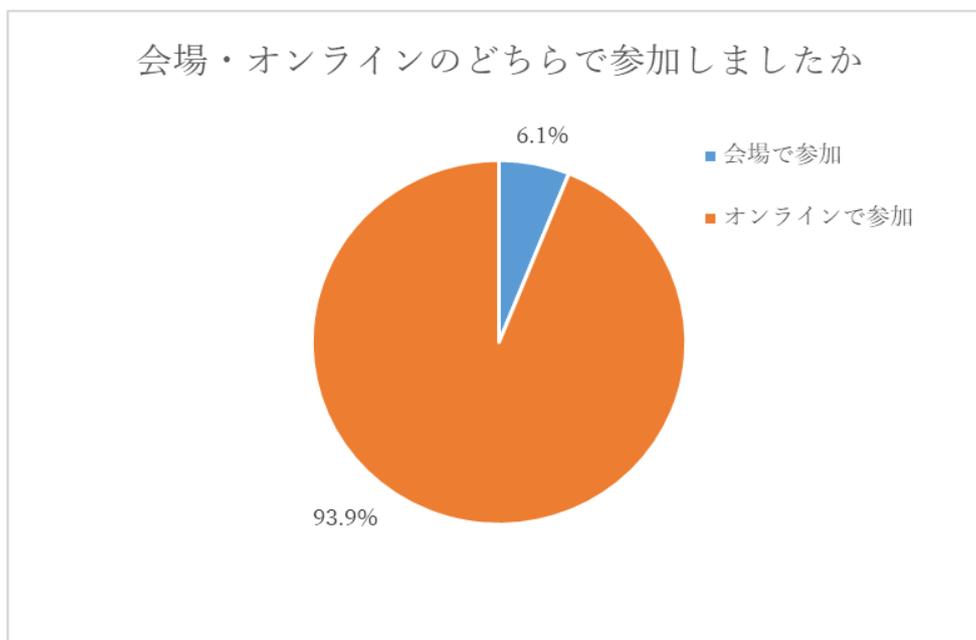
(5) 今回のセミナーをどちらでお知りになりましたか？ (人数の列の単位：人)

選択肢	人数	割合
がんネットジャパンのホームページ	12	9.2%
がんネットジャパンのメールなどによる案内	34	26.0%
がんネットジャパンのSNS (Twitter・Facebook)	10	7.6%
病院内掲示物等でのお知らせ (告知用チラシ)	66	50.4%
登壇者からの情報	4	3.1%
友人・知人からの情報	8	6.1%
その他	4	3.1%



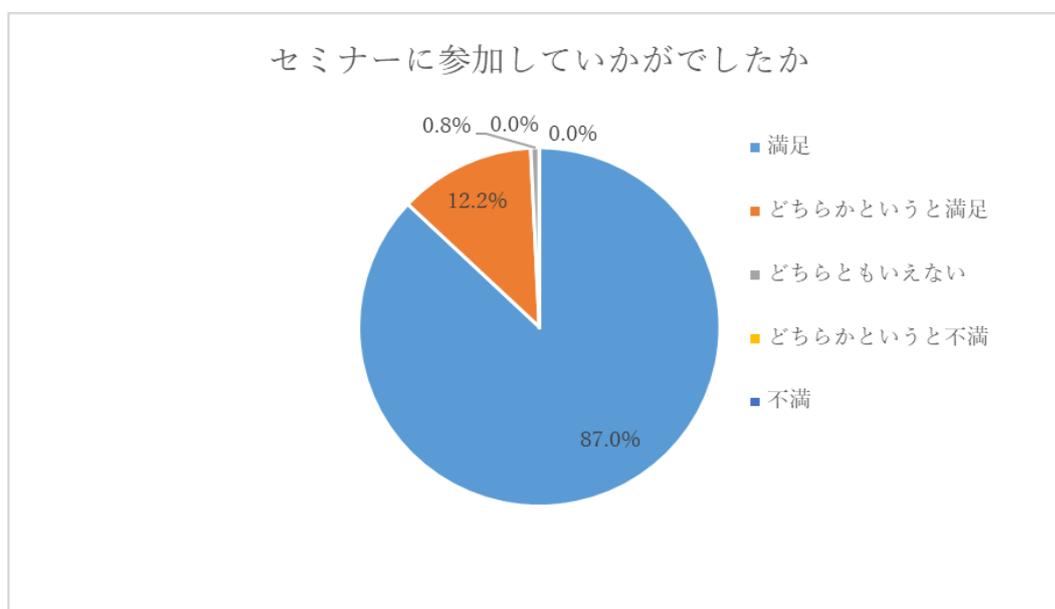
## (6) 会場・オンラインのどちらで参加しましたか(人数の列の単位：人)

選択肢	人数	割合
会場で参加	8	6.1%
オンラインで参加	123	93.9%



## (7) セミナーに参加していかがでしたか(人数の列の単位：人)

選択肢	人数	割合
満足	114	87.0%
どちらかという満足	16	12.2%
どちらともいえない	1	0.8%
どちらかという不満	0	0.0%
不満	0	0.0%



**(8) 上記回答した理由をお聞かせください。**

- ・当事者の方の貴重な経験を聞くこと（理解すること）ができた。（17件）
- ・当事者の方のお話しに、すごく心が動かされました。（5件）
- ・一般的な有害事象だけではなく、性で悩んでいる患者への情報提供の必要性を知ることが出来たため。
- ・がんサバイバーである方からの話を聞いて、これからの看護に役立てたいと強く思いました！
- ・基礎的なことから、患者の体験やディスカッションを聞いたから。
- ・がん体験者のサバイバーとして闘病することではなく、生活者として生きる苦しさを理解することができた。
- ・避けがちであった性について、患者さんの声を直接聞く機会となり、どんな情報を求めているか知れたため。
- ・普段からがん患者さんに関わっている立場として考えさせられました。
- ・教員をしています。今後、がん看護を学生に教えるにあたり、何かしら伝えたいなと思いました。
- ・体験談から学ぶことが多かった
- ・私は認定看護師として性機能障害の学習やプリシットモデルについて学習したものの、現場に帰るとどう接していいのかわからず、そのままにしていたことに気づきました。初めて患者さんの生の声を聴き、それはそのままにしていたのではなく、見ないふりをしていただけだと反省しました。過去の膀胱全摘の患者さんに、もっと声掛けをしていれば、そして現在抗がん剤治療している人に、もっと想像力を働かせられるようにしたいと思います。貴重なお話、誠にありがとうございました。
- ・AYA世代の患者に関わる機会があったため
- ・患者さんの本心が聞いてよかったです。医療をはじめ、様々な種類の支援職が、もっと当事者の声を聴かなければならないし、それができる、余裕のある日本社会でなければならぬと思います。
- ・性について相談すること、支援者として聴くことの大切さを学ぶことができました。
- ・患者さんの実体験を聞くことができ、心が揺さぶられました。やはり愛する人と触れ合うことは大切ですね。
- ・4名、特にご自身の体験を語ってくださったお二人のお話に感動しました。心が震えて泣きました。改めて「がんと性」について考える機会になりました。知識ではなく、人としてのあり方、サバイバーシップ支援の在り方を考える機会になりました
- ・長年がん看護に携わっており、性の問題に関する自己の知識や患者支援に役立てるため
- ・がんを患った人にしかわからない性の悩みを教えていただけたので、自分の意識を変える

ことができそうです。

・これまでがん患者さんの治療が安全安楽に進んでいくことばかりに意識が向かっていた事に気が付きました。人として大切な事、大切な気持ち、様々な悩みを抱えている方がいる事を学びました。明日からの看護に生かしていきたいと思います。

・男性患者、女性患者、それぞれの立場、未婚者、既婚者など、立場や背景を理解した上で、こちらから声をかけていきたい、と思うことができました。

・若くしてがんの治療をしている患者様は多くいます。私はまだ看護師としての経験が浅いですが、そのような患者様と何を話したら良いのか、しなければならぬ業務だけ行えばいいのかと考えるようになりました。今回の講演に参加し、実際の声が聞けたことすごく為になるお話が聞けました。入院中に患者様の心に寄り添えるようこれから頑張っていきたいと思います。

・泌尿器外科で働く看護師として、がんと性について考えるいい機会だったため

・普段、患者さんの立場からは相談しづらいことをそのままご講演頂いたお二人には敬意を表します。私は乳腺外科医ですが、臨床の場で実際に関係することなので貴重な内容でした。

・がん患者さんの妊孕性温存に関わっているが、このような実際の患者さんのお気持ちを聞ける機会をもったことで、妊孕性温存だけではなく性と生殖全般の支援の必要性を実感できた。

・体験者のみなさんの言葉にとっても心を動かされました。これまで必要と思いながらもなかなか行動に移すことができませんでした。これからは話せる場となれるよう日々のケアの中で意識しまずは皆さんに相談ができる場があることを知ってもらえるような取り組みから始めていきたいと思いました。

・なかなか聞けない内容なので、今後も続けていただけるといいかと思います。時間管理も大切です。

・性の問題はなかなか患者さんから発信しにくいことですが、多分たくさんの方が抱えていると実感しました。おふたりのサバイバーのお話に、感動しました。

・セクシュアリティについては大変重要と考え、微力ながら支援してきましたが、改めて大切なことだと痛感いたしました。皆様のお話に心を揺さぶられました。今後の活動に活かしていきたいです。

・サバイバーの方の思いを聴けたことと、知識の確認ができました。

・超勤対応で中盤からの視聴となってしまったため

・柿本さん、原さんから真の心情、現状を聴かせていただけ感謝いたします。

・人間にとって性の大切さを再確認できました。がん患者も人間、ここを疎かには決してできません。

・今までの経験上、がんと性について看護師として十分な説明や支援ができていなかったこ

とを反省し、今後はちゃんと性の問題に向き合っていきたいと思います。

- ・サバイバーの方のストーリーがとても心に届きました
- ・患者さんの立場での切実な思いを聞くことができ、本当に参加して良かったと思います。
- ・普段からがん生殖看護に携わっており、妊孕性温存治療などに関わっていますが、ここまで性を切実に考えることがなかったです。妊娠・出産の前に、性のことを自分自身でもきちんと捉え、人間として看護していくきっかけをいただきました。
- ・勇気を持って話してくださった皆様にエールをお送りします。また、企画いただき本当にありがとうございました。
- ・患者さんの生の声を聴く機会はあまりないので貴重だったし、知識を得ることもできた。一方で何が自分にあるいは医療者にできるのかということにはまだ答えを持っていないので。
- ・がん化学療法に普段携わっています。患者さんの視点から話すことは難しい副作用であると感じるので、今回話してくれたお二方の勇気にこたえられるよう、今後活かしていきたいと思いました。
- ・体験者の方のなかなか伺えない性に関する生の声、本音の気持ち、医療者側の考えなど両方聴くことができ良かったです。心が揺さぶられました。先生のコメントで、どれだけ患者さん個人のストーリーに目を向けられていたかという反省も率直で良かったです。たくさんの医師にも聞いてほしいと思いました。
- ・柿本さん、原さんの性のご経験の真実をお聞きできたこと。揺さぶられた感情を今後の支援に必ず生かしていきたいです。
- ・普段聞くことができない話を聞くことができたため。
- ・このようなセミナーが今までは無く、質問されても主治医と相談しましょう。としか返答できていなかったのが現状でした。何よりも患者さんの本音が聞けたこと。悩みを抱えていてもなかなか相談もできずにいたということに自分も至らない点が多く気づくことができ、いい機会になりました。
- ・本当に性が生きるために必要であることを改めて実感させられたから。
- ・実際のサバイバーの方の話を聴けたことで、医療者として勉強になったのは勿論、1人の人間として心を揺さぶられました。原さんの話に涙が出ました。
- ・今後の相談支援に取組む際の参考になりました。
- ・現在放射線治療部門の勤務をしています。がん相談員の研修も受けました。しかし、がん治療の真っ只中のケアがメインになっていて、AYA世代のがんでの妊孕性については考えることがあっても、性について考えたことはなかったし、患者さんと話すことがなかったなとおもい、これではいけないと感じました。
- ・がん治療後の性に関する悩みについて先生方から根拠に基づいた内容を知ることができて

良かった。勃起障害の検査や治療については初めて知る機会となりました。また、柿本さんと原さんの勇気ある講演に感謝いたします。

- ・相談ができれば
- ・がん体験者の方の性にまつわる苦悩や、性の話題からいろんな本音をうかがうことができました。自分にとって性生活の話題は優先度が低くなりがちで、患者さんからも切り出されることがなかったので、積極的に関わってこられませんでした。今日、原さんのお話を聞いていて、性生活の話題からその方の抱えている深い苦悩が引き出されていることを感じました。この話題がなければ、その部分が表出されることはなく、誰にも気づかれることないまま苦しい思いのまま時間が過ぎていったかも知れません。性生活について話題にすることの意味を感じました。
- ・遅刻参加でしたので、最初から参加できると良かった。
- ・患者とのコミュニケーション能力に役立つ情報が、たくさんありました。
- ・がん医療における性・生殖分野の実際、サバイバーの方が抱えている切実な思いに触れることができたため。
- ・先生方からの知識の共有についても知らないことが多く勉強になったが、それ以上に、経験者お二人からのお話しに心を動かされた。明日からの仕事に対する姿勢が変わる講演会になりました。
- ・サバイバーの方の生の声が聞いてよかったなと思いました。また、その思いを聞いているうちに「その人の人生に寄り添う仕事なんだな、私は最近ちゃんとできているのかな」という振り返りの機会にもなりました。性のことが積極的に話されないことにずっと疑問を持っていました。患者さんをまるごと受け止める、尊重することに性のことは入らないのかな、と。今日参加できてよかったなと本当に思います。今日のことを参考に自分ができることを考えて少しずつですが行動して行きたいと思います。ありがとうございました。
- ・体験談をお聞きし、いろいろと考えさせられました。ありがとうございました。
- ・主に泌尿器科で勤めています。前立腺癌の男性に対して、60歳なんだからもういいだろう…とどこかで医療者側から区切りをつけて話をしていたように思います。あらためて患者と向き合うことの大切さを認識しました。
- ・私は医療者であり患者です。どちらの話も聞いて仲間がいることに心が救われました。もっと話していきたい、話を聞きたいと思いました。性と生、切り離せません。どちらも大切にされるべきだと改めて感じました。
- ・がん治療の具体的な性機能への影響について、お二人の先生から、女性、男性のがんの手術、治療による性機能への影響について、教えて頂いたことが学びとなりました。柿本さん、原さんのお話は、医療者としての説明責任や寄り添う姿勢・態度を考える機会となりました。人として、心を打たれる場面もありました。辛い体験だとは思いますが、勇気をもって話して

くださり本当にありがとうございました。

- ・患者さんに本当の苦痛がわかりました。やはり性の問題は必要と再確認できました
- ・体験者のお二人のお話が本当に素晴らしかったです。勇気をもって話しにくいことをこのような場で共有してくださったことを、医療側の立場として今後活かしていきたいと感じさせていただきました。
- ・性についての患者さんの声を聞いて、改めて妊よう性への介入の必要性を考えさせられました。
- ・医学的な内容も当事者からの素直な生活での困りごとにも一度に聞くことができ、大変有意義な時間でした。常々、医療は”疾患”に焦点を当てつつも、患者さんの生活やその方の人生に、寄与するものは大きい、その視点を忘れないように努めたいと思います。一方で、自分の専門以外のこと（ちょっとした事務作業など）でもやっていかねばならない勤務の中で、ついつい、その根底を見失いかけることもあることも事実。今回のセミナーは、性に対して各診療科がされている医療的な知識、当事者が感じる困りごとといった知識面での習得とともに、医療従事者としての心構えを改めて奮い立たせてくださる機会となりました。本当にありがとうございました。
- ・体験者の話がリアルで感動しました
- ・医療者・当事者の垣根を超えたセッションを聴くことができ、大変感銘を受けました。支援する側される側ではない関わりと専門職としての関わりについて考える機会となりました。がん相談支援センターとして何ができるのか、働きかけられるのか…。できるところからでも取り組んでいきたいと思います。
- ・様々ながん患者さんと関わってきた中で、初めて性に関する話を患者さんから聞くことができ、強く心に響いた。これを心に留めず、現状課題に取り組む上で、多くの学びを得ることができたから。
- ・普段は知りえない生の患者の声でした
- ・この会を企画された運営の方々、登壇された方々の熱意を感じる今までにない、心動かされるイベントでした。原さんも柿本さんも性について話すことが許されている場であるからこそ、ずっと抱えてた気持ちを話してくださったのだと思いました。病院の中にある場所なのか、もしくは人なのか、地域なのか話すことが許されている状況があることがまず患者さん方を救うことに繋がるのではないかと考えました。医療者は解決ができないことに対して相談されることに慣れていないと思います。意識を変え知識を蓄えなくてはと思います。この性の問題は人と人の関係性がとっても重要であることは重々承知しているものの、意識を変えるだけでは多くの患者は救われれないと思い、システムを変えるような取り組みも必要なのではと感じています。本当にこのイベントに心突き動かされております。ありがとうございました。

・とても話しづらい内容を勇気をだして、お話していただき、泣いてしまったくらい本当に胸が熱くなりました。がんになって治療していてもたくさんのことに向き合っていかなくてはいけない。長い人生、性のことに諦めてほしくないなあと思いました。そのために自分たちに何ができるのか考えていこうと思います。ありがとうございました。

・当事者意識に触れさせていただく貴重な機会でした

・満足という言葉以上です。先生方、柿本さん、原さんには敬意の気持ちでいっぱいです。

・サバイバーの方の貴重な経験を聞くことができたことが非常に有意義であった。会場やオンライン参加者との意見交換の時間がもっと欲しいと感じた。

・とても貴重な体験やお話を聞くことができ、日々の仕事に対する反省と今後の課題を得ることができました。また自身への振り返りもでき、考えさせられました。

・当事者の切実なお気持ちを聞かせて頂くことができ、大変感銘を受けました。また、先生方のご講演では、がん患者と性生活に関する専門的な視点で聴くことができ非常に勉強になりました。

・体験者の方のお話に心を揺さぶられました。自分自身、がん経験者ではないですが、セクシュアリティについて悩みはありますが、見えないふりをしていました。その点においては、ご登壇いただいたお二人とも何も変わらないのだと思いました。妊孕性支援について勉強の機会をいただき、私なりに支援について考えていましたが、その手前にある性のことを「生殖」の視点以外で考えられていない自分に気がつきました。支援なんておこがましいのではないかと、情けない気持ちでいっぱいです。しかし、そこで思考を止めるのではなく、ではどう一緒に考えられるのか、どんな支援者であるか自分の在り様を0から考え直したいと思いました。貴重なそしてとても勇気のあるお話しをしてくださり、すばらしい企画を提供してくださり本当にありがとうございました。

・患者の本当の気持ちを聞くことができたから。原さんについては、偏見がありましたが、見た目とか芸能人とか先入観で見ていたことを反省しました。男性の方の切実な思いを知ることができてありがたいと思いました。

・患者さん自身の体験談などを聞いた。まずは、どんなに悩んでいるのか、知ることができた。

・セクシュアリティについて、なかなか患者さんと話し合う機会を持つことが難しいと感じていました。実際に患者さんがどのように感じているのか、生の声が聞けてもっと自分から声をかけていけないと再認識することができました。

・登壇者の方のお声が胸に迫り、自分の今までを振り返り反省もしました。今後の対応の大きな学びになりました。

・なかなかこのようなセミナーが少ないため貴重でした。

・テーマがテーマなだけに、特に体験者のおふたりに自分の状況や気持ちなどを勇気を持っ

て話していただいたことに感謝したい

- ・当事者ならではの貴重なお話が聴けました。勇気を出して話してくださったことに心からお礼申し上げます

- ・どんな気持ちの変化があるか、どうか変われば良いのかわかりました

- ・臨床の中でとても重要だと考えているが、話題にすることさえ躊躇されることが多い内容について、医療者や当事者の話を聞くことができたため。

- ・一般的な講演と違い、本当に生の声を聞かせていただきました。有難いです。

- ・セクシュアリティについて学んだことがなかったためとても勉強になりました。泌尿器、消化器外科に勤務していましたが性についての知識がなく患者さんに声かけすることもできなかつたため今回の研修を通して少し話ができそうだなと思いました。経験年数が上がるに連れて退院後の患者の生活に視点を当てることの重要性を感じています。そのためとても学びになりました。サバイバーの方の生の声を聞くことができて心に響きました。個人的に婦人科系のがんになる手前の状態のため自分の心の準備のためにも参加しました。

今回の研修を通して患者さんが立ち上がっていくのではなく医療者側から性について情報提供できる場がどんどん増えていくとよいと思いました。今回事前登録で質問しましたがそれに対する回答がほしかったです。またサバイバーたちの経験談を知りたかったです。パワポでの一問一答のようなもの。

- ・多面的にお話を伺えてたいへん有意義でした。ありがとうございます。

- ・専門家からの具体的な講義と当事者の心の内を丁寧に教えてくださる内容に、本当にこの場に参加して良かったと思います。

- ・がんと性というテーマを取り扱っていただいたこと、大変革新的で素晴らしいと思います。恐縮ですが、期待をこめて以下記させていただきます。長くなりますが、ぜひ読んでいただきたいです。

①「もっと話そう性のこと」というテーマにて「もっと患者さんの声に焦点を」と率直に感じました。

医療情報より、むしろ患者さんの生の声を聞く機会の方が貴重であり、今回も医療者と患者の温度差というか「切迫感のギャップ」を目の当たりにしました。

登壇者様の「勇気あるカミングアウトへの感謝」という帰着でなく、当事者一人一人のストーリーや切迫感など、あらゆる方にお話してもらうのが何よりも課題やともすれば解決への道につながるヒントになるのではと感じます。

②登壇者の方へのフォローももっとしていただきたい。

性は尊厳の問題でもあり「話したものの割に合わない」ようでは、ますます性の問題は患者さんの心の底にしまわれていきます。お二方とも講演に大変悩まれたとおっしゃっていましたが、これをお二方の勇気で帰着してはいけないと感じます。

③これは②にも繋がりますが、実名・顔を出しての講演だけでなく、性については、匿名での患者の方の講演も検討していただきたいです。

性について話しやすい社会を目指すには、「誰かが勇気をもって顔を出して話す」というのはまだまだハードルが高いのが現実です。

原さんのおっしゃった通り「がんでなくても、セックスについては普段からそんなにおおっぴらには話さない」ですし、また「身近で誰もが抱えるテーマなら、匿名での経験談もまた許容される」のではないのでしょうか？

②でも申し上げましたが「患者さんが割に合わない」ようなことがあってはいけません。患者さんにとっては地続きの問題で、まずは安全性の担保が必要だと感じます。

ぜひ、安全にそして自然に、患者さんが声あげられ話し合いができるような場作りを検討していただきたい。

### **(9) がんと性(セクシュアリティ)について今後、希望するイベントや情報などがあれば、教えてください。**

- ・具体的な患者への介入方法に関する研修を受けたい (3件)
- ・サバイバーの話が聞きたい (2件)
- ・悩みを相談して対処ができたという成功体験があればお聞きしたいです。(2件)
- ・LGBTQの患者さんのがんと性の困りごとについて (2件)
- ・患者会等の情報も知りたいです。
- ・やはり色々な経験を聴くことで、なかなかイメージしにくい問題を把握することができるように思います。
- ・今回のようなシンポジウムを継続していただければと思います。
- ・がん患者の性に関する具体的な支援について (カウンセリングなど)
- ・がん看護学会や様々な学会の教育セミナーで取り上げてほしい
- ・カウンセリングなどがあれば、具体的なスキルを知りたいです
- ・患者さんが性に悩んでいたら、実際にどのようなサポートが出来るのか知りたいです。
- ・当事者のパートナーの思いも聞いてみたい
- ・今回のような、治療による性機能変化や障害、妊孕性温存後の支援などに関する支援の実際や、支援の在り方などを検討する機会があると嬉しいです。
- ・自身では解決しきれないことも多いかと思います。そんな時にどのような連携が取れるのか情報を知りたいです。
- ・がん患者さんは性の悩みを「どこに(誰に)相談すればよいのか、話を聞いてもらうだけでなく解決の糸口はどこにあるのか、国内に専門の相談員はいるのか」を具体的に教えてほしい。

- ・性の問題も、がんの診療においてスタンダードな問題として取り上げられるよう、今後もテーマとして取り上げていただきたいです。
- ・医療者としてどう具体的に介入したらよいか、事例などもあればお聴きしたい
- ・AYA 世代の生殖能を失った方への対応困難症例への対応
- ・性を可能にする世界の先端医療と日本の取組み
- ・医療者は知識があっても患者さんの体験談から学ぶことが多いため、患者さんにとっては非常に話しづらい内容ではありますが、オープンに医療者と話し合える機会や交流の場があればと思います。
- ・治療前の妊孕性温存療法までの意思決定支援、治療完解後の不妊治療について
- ・術式や治療方針の意思決定支援については、医師の価値観がとても影響していると感じ、看護師として支援の難しさを感じます。どうしても治療優先となるのはわかるのですが、どうやって医師と協働していくか、理解が少ない医師とどのようにこの問題について関わっていくかが課題だと感じました。
- ・Xジェンダーとがんについて
- ・もしもあれば、術後などにセクシャリティについて声掛けをしたり相談にのっている医療機関や相談機関の話が聞ければと思った。
- ・がん相談支援センターで情報発信できるようなツールがあったら積極的に情報提供いただければ幸いですがん看護に関わるもの、がん相談支援センターでの支援としても、セクシャリティーに関して関心がありますが、なかなか専門的な研修会が少ないのが現状なので、研修などがあれば参加したい。
- ・セミナーの中にもありましたが、患者さんが気軽に相談できるようなシステム構築に関する情報など。
- ・それぞれで体験していることは異なるので、それらを知ることができる機会があればと思います。
- ・できれば自分の病院でも同じような講演を行なってもらいたい。実際のサバイバーの方のお話はとても参考になるし勇気をもらえる方も多いと思います。もっともっと地域に全国に広がっていき、今苦しんでいる、悩んでいる、諦めている方のもとへ届くといいです。その橋渡しを自分ができたらいいなと思いました。
- ・言葉にはしにくい時に、小冊子はとても良いと思います。引継ぎ、冊子等の充実もよろしく願いいたします。
- ・積極的に性や妊孕性についての情報提供や相談を行っている施設の取り組みを知りたいです。
- ・病院から、地域へ繋ぐ社会支援方法
- ・ロールプレイの場があると実践に自信がつきそうです

・今回の講演をふまえて、がん患者の家族から性について話を聴くことができたらな、と思いました。

・今後も活動を続けてください。がんと性についての問題はパートナーと二人三脚でなければ前に進めません。今日もお話にありましたが、相手のためにという気持ちや申し訳ないという気持ちが患者にはあります。患者とそのパートナーの話も聞きたいと思います。パートナーがおられない方もいらっしゃるのでおられない方向けのイベントと分けるのも良いと思います。

・妊ようせい温存方法、補助金について、色々な施設での取り組み

・医療者が性のことを話すことで生じる患者さんへの影響（良かった体験だけでなく、不満・不快に感じた事例も含めて）。多職種（医師や看護師だけでなく、MSWやリハセラピスト、介護士、心理士、検査技師など）ができること、各職種に求められるニーズについて知ることができる機会があると嬉しいです。

・個別性の高い支援であると思います。取り組みや好事例などがあればと思いました。

・海外における、がんと性に関するケアについて。日本と海外では性教育のところから異なるが、組織全体で取組を考える上で何か役立つ情報があるのではないかと考えたため。

・性やセックスに取り組みたい人向けの知識や治療は医療機関などリソース

・性機能障害支援に対する日本の介入の現状。患者団体とともに医療者とサバイバーシップ支援の事業を考えていくプロセスを是非見せてほしい。なんらか参画できるようにわたしも成長できるようにします

・なかなか話にくいとは思いますが、当事者同士のおしゃべり会

・1.個人としては、性同一性障害や無性愛、更年期後の性についてなど学んでみたいです。  
2.医療者としては、今回のことを踏まえて入院期間が短くなる中、どのように性について患者に踏み込んでいくのか、タイミングなどを学びたいです。退院の際に性について指導を行っている病院などあれば、実際にお話を聞かせてもらったり、パンフレットなどあれば拝見させていただきたいです。3.未成年者の墮胎について患者や両親、パートナーやパートナーの両親についての対応やケアについても学びたいです。手術時にパートナーの母親が孤独に立たされている現状にどう接して良いのか、どう接するべきなのか悩んでいます。医療現場の性教育含めお願いしたいです。4.子宮頸癌ワクチンについても学びたいです。婦人科の授業を受け持つことがあり、副作用に悩んでいる職場の看護師がいる中、生徒に接種を勧めることができません。詳しく学び、これから看護師になる生徒に伝えていけたらと。

・遺伝性乳癌卵巣癌（HBOC）のリスク低減卵巣卵管摘出術（RRSO）後のセクシャリティに関してのイベントを実施できればと思っております。コラボ企画などできれば嬉しいです。

・恋愛＝セクシュアリティではないのですが、影響は大きいと思うので、恋愛や生き方に関する当事者の方目線の情報があればと思います。

- ・サポートのあり方や、相談にどのように対応したら良いか知りたいです
- ・もっと普通に議論できて、がん患者の支援の際に当たり前の事項になるといいなと思うので、セミナー等が頻繁に開催されることを希望します。
- ・顔を出しづらい方も気軽にできるチャットで投稿する質問コーナーとか？
- ・患者会でのやりとりや実際に関わっている医療者の経験を知りたいです。
- ・がん患者の方が主体となった意見交流会や質問会。諸外国の医療者や患者とつなぐ、がんと性の現場の情報交換会。薬剤師や看護師・介護士などの医療従事者やケアサポーターを交えた意見交換会（医師だけでなく各現場でも性のケアノウハウや課題があることを共有してほしい）

#### (10) その他、ご意見などあればお書きください。

- ・普段聞けないお話が聴けてよかったです。
- ・みなさんの講義にとっても感動しましたし、今後の看護に生かしていきたいと感じました。
- ・先生方、体験談を語ってくれたお二人にとっても感謝しています。これからの看護に生かしていきたいと思います。
- ・とても良い内容なので、アーカイブで聴ければいいと思います。
- ・すごく心が動かされました。まだまだ自分自身支援が足りないと感じました
- ・登壇者のお二人が一生懸命に語ってくださったことを忘れないで、自身も学習と周囲への啓発にとりくんでいこうと思いました。ありがとうございました。
- ・患者さんと向き合っているような気になっていましたが、きっと気づけていない部分も多いのだろうなと思いました。貴重な経験談を聞かせていただき本当にありがとうございました。
- ・小冊子希望致します。
- ・体験者の方々の気持ちのこもったご発表に心を打たれました。性に関する話をするのが特別ではない世の中になればよいなと思います。
- ・質問ではありませんが。今回の研修など、最近やっとがん患者さんの性問題について日本でも取り上げられる時代が来てくれたと思っています。こういったセミナーや活動を増やして頂きたいです。ありがとうございました。
- ・以前は婦人科病棟でがんと性に関して患者さんと話すこともありましたが、現在多忙な大腸外科に転職し、サポートできていないなと言う葛藤がありました。今回セミナー参加でき、時間を設けてサポートしていけたらなと思っています。ありがとうございました。
- ・素晴らしい会に参加させていただき感謝申し上げます
- ・医療的処置ではなく、精神的な支援の在り方を、明日から考えたいと思いました。とても良い機会となりました。ありがとうございました。

- ・貴重な研修会を企画していただきありがとうございました。
- ・医療者であり、BEC生です。とても学びの大きいセミナーでした。
- ・本日は、本当にありがとうございました。すぐにできることは少ないかもしれませんが、目の前の患者さんと性のことに関しても向き合っていきたいと思います。また、是非、冊子を頂戴し、活用させていただけますと幸いです。
- ・とても感動的な有意義な時間でした。
- ・男性女性の立場での性機能の悩みを知り、その支援の希少性も痛感した。病院内でのオンコロジー側と生殖医療側の協働、相談窓口開設、院外での行政や患者会とのつながりなど、今後の課題を理解できました。本当に貴重なお話をありがとうございました。
- ・術式や治療の意思決定、術後、治療中・治療後だけでなく、その後の時間を過ごしたサバイバーの方々への支援にもニーズがあることがわかりました。暮らしの保健室などで、がんと性に関する相談を受けたりしていければと思いました。また、拠点病院などのがん相談支援室と連携して、ご紹介いただけるようなネットワークの構築が重要であるのではと思いました。
- ・さらけ出すことの難しい性に関して、ありのままの話をしていただいたパネリストさんに本当に感謝いたします。
- ・かきもとさん、はらさんの講演をぜひ職場の医療スタッフと共有したいです。もし実現可能なら、ダイジェスト版でも、お顔やお名前を明らかにしない形でも、動画で共有できる形になったらありがたいです。今まで様々ながん経験者のお話を聞く経験がありましたが、胸が熱くなるお話で、聞いた医療者の多くに刺さるものだったと思います。ウェブですがお二人を抱きしめたいような気持ちになりました。今回参加できて本当に良かったです。
- ・本音で話していける場があること、大事ですね
- ・ここで相談できる、情報を得られるということが明確であれば医師や看護師も患者さんに声をかけやすいと思う。それがないのでなかなか声がけしづらい。性の専門家を増やすのは難しいと思うが、パンフレットなどを通して、性のことだけでなくサバイバーが生きていくための情報のパッケージの一つとして性の情報も伝えていけることで、少しでも気持ちが楽になる患者さんや家族がいるのではないかと思った。
- ・参加できてよかったです。明日からの患者さんへの対応により一層生かしていきたいと思います。企画運営のみなさまありがとうございました。
- ・企画、運営、ご登壇の皆様、本当にありがとうございました。時代と共に、性に関する捉え方も随分変わりました。相談員として、性について、がんと性、がん治療と性、性機能障害について知識をもち、患者さん、パートナーの力になりたいと思いました。
- ・今回は貴重なご意見を聞くことができ、ありがとうございました。
- ・ICUで泌尿器・婦人科ともオペ直後の患者さんを看てきました。もちろん術直後にはこの

ような話ではできませんが、特に予定の術式と異なった場合や泌尿器科で神経が温存できなかったときなど、この方の今後はどうなるのだろうと思っていました。自分自身もがんではありませんが不妊・妊孕性の部分で性について今でも悩んでいること、まだまだ知られていない分野であることを知ってほしいと思っていることもあり、とても考えさせられました。と同時に、自分自身が性についてとても関心があることに気づかされました。今日のことを大切に、女性として、医療者として何か還元できることができればなと感じました。このような機会を作ってください本当にありがとうございました。参加できてよかったです。

・「情報提供だけで終わることは無責任で、その情報からちゃんと患者がアクセスできること、その支援ができることが大事」という内容の話は、MSW への重要なメッセージと思って受け止めました。ただ、私は女性なので、男性の悩みが体感としても理解しづらい面があるので、もしがん患者さんへの性への支援を行うのであれば、男性女性それぞれの相談員がいた方がいいと思いました。

・支援の難しいテーマであると思いますが、生きていくうえで大切なことだと思います。少しでも、寄添えることができるようにしていきたいと思います。

・冊子が置いてあると、患者さんにとって、こんなことを聞いても良いんだなと思ってもらえる機会になるかなと思いました。

・当施設でどんな取り組みができるか、どんなリソースにつなげることができるかを同僚と話し合ってみたいと思います。貴重な会を開催いただきありがとうございました。

・講演会の中でもお話があったが、生か死かに目を奪われて、性機能の問題は医師から軽視されている。困ったことだ。

・医療者サイドだけでなく、サバイバーの方々が抱えている思いについてもふれることができたことが大変印象的でした。がんと共に生きる時代になっている現代だからこそその課題であると思いますし、AYA 世代においては結婚や妊娠・出産、育児といったライフイベントが多く訪れるからこそ悩みを抱える課題だと考えています。これから臨床に立つ者として、がん患者さんが抱えている現時点のニーズに応えることはもちろん、サバイバーとして生きていくなかでふと生じたニーズにも応えていくことができるようになりたいと強く思います。

・仕事終わりに今日のセミナーの話を乳腺外科医師にしたところ是非内容を聞かせて下さいねと言われました。月曜日にセミナーの話をするのが楽しみです。受講中治療中の何人かの患者さんの顔が浮かんできました。冊子を渡す時に声をかけてみようと思います。

・がんと性について悩む患者さんに紹介できる、具体的な医療機関や相談窓口を地域ごとに検索できるサイトがあれば良いと思いました。CNJ のサイトの中にそういう機能があっても良いのかもしれない。

・性について、人はそれぞれ個人的な深い傷を持っているんじゃないかと思うことがありま

す（病気の有無に関係なく）。そして多くの人はそのをひとりでひっそりと抱えて生きているのではないのでしょうか（原さんがおっしゃっていたように、友人にも親兄弟にも話せない人が多いと思います）。柿本さんの、「相談できる場があれば」という切実な願いが叶えられるためには、そういう相談を受ける人（医療者、相談員）のためのトレーニングやケアも必要だと感じました。それくらい、性の問題は重いものなのではないのでしょうか。

・今回の講演に参加できて本当に良かったと思います。オンラインでなければ柿本さんの話を聴いて「(彼が)生きていてくれて良かった」と思うことも、原さんの話を聴いて心が揺さぶられることもなかったと思います。勤務時間のうち、さらに限られた接触する時間の中で、柿本さんの動揺や混乱に気付けたかどうか。もしかしたら私も同じように対応したかもしれないと心から反省をする機会でした。原さんはテレビの世界でも活躍されており、そんな方の貴重な公演を聴かせていただくことも、いつも可愛い笑顔を見せてくださっている、その向こうの苦しさをすることもできなかつたと思います。お二人の活躍と笑顔を長く見られるように、遠方におりますが、私たち医療者ができることを少しずつ少しずつ、お手伝いしていけたらと思いました。本日は本当に貴重な講演をありがとうございました。

・相談の窓口を広げるためにも、正しい知識やどんなリソースが活用できるかを知っておくことが私自身に必要なと感じました。時間があっという間に過ぎました。ありがとうございました。

・私は今看護師5年目で国立がんセンター骨軟部腫瘍科病棟で勤務しています。また、2020年、看護師1年目の時に骨肉腫と診断を受け薬物療法と手術を経験したがんサバイバーでもあります。今回、医療者・がんを経験した者両者の立場からお話を聞かせて頂き、とても心を動かされる内容でした。

是非とも職場でも共有していきたいと思いました。そして、私自身勇気づけられた時間であり、今日感じた思いを大切にこれから生きていきたいと思います。一がんサバイバーとして同じように悩んだり、不安に感じていることに本当の意味で寄り添える介入を医療者として提供できるよう努めていきたいと思います。本日は本当にありがとうございました。

・私自身は大学病院の生殖医療現場にいる助産師です。患者さんの病気と性、拳児への願いについて支援していますと、愛の伝道師にでもなりたいのかと後ろ指を指されるような状況を長年感じています。がんと性についての今回のセミナーではとても大事な人としての尊い権利であることを再認識、それ以上のものを実感しています。ご登壇頂いた方々に本当に敬意を感じています。性セクシュアリティについて性教育などで少しずつ多様性が広がっていますが、医療現場にはなかなか浸透していないのが実情です。また性と生殖についてどう対応してよいか困って見て見ぬふりをするスタッフも大勢です。この状況をやはり私自身変えていかなければならないと思います。

・若い患者さんにとって、親や大人の前で性のことを話題にすることが悪いことのような価

値観を与えている可能性があることを改めて感じました。とかくセクシュアリティに関することは最大の秘事で、匿名であれば語っても良いという雰囲気もあると思います。患者さんに「すべてオープンに話していいよ」と伝えても病院という場で医療者に打ち明けることは難しいでしょう。今の時代は SNS などを活用して、患者さんがリラックスして安心できる場所からアクセスできることも必要です。ピアサポートグループでは随分と前から取り組んでいらっしゃいますが、医療機関はまだまだ遅れていると思います。妊孕性温存に関心が向いたことは前進ですが目的が手段になっており、患者さんの一度しかない人生に向き合っているのかという問いをいただきました。医療者にとって多くの患者さんの一人であっても、その人にとっては人生の全てなのだということを改めて感じ、がん患者支援とは何かを自問自答していきたいと思います。柿本さん、原さんの勇気ある行動に本当に心を打たれました。

- ・とても自己について考えさせられる講演会でした。パートナーがおらず、更年期である私自身が立ち止まって考える必要があるのではないかと。健康体であっても性について悩んでいる人はいると思います。話し合える場さえあれば、もっと気軽に気楽に解決まで至らなくても悩みの軽減はできるのではないかと考えます。また、職場で男性患者に性について全く退院指導を行っていなかったことに気付かされました。異性はわからない分、医師へもっと協力を求めていく必要がありました。わからないことに気付いていなかったと反省しております。

- ・がん研有明病院の臨床遺伝医療部の認定遺伝カウンセラーをしています。2019年より、遺伝性乳癌卵巣癌（HBOC）のリスク低減卵巣卵管摘出術（RRSO）後の性生活に関するアンケート・インタビュー調査を実施しており、今年の5月に当事者のための性生活に関するパンフレットの発刊を計画しております。今回のセミナーも大変興味深く聞かせていただきました。婦人科癌患者の手術は治療のため余儀なくされますが、RRSOの手術の選択は、そのタイミングも含め、「自分で決めること」であり、セクシュアリティに悩み選択できない方もいます。そのような方々に支援できることがあればと活動しております。今後とも是非色々勉強させていただけますと幸いです。

- ・事前にあがった質問に返答していただきありがとうございました。せっかくの機械だったのでせめて半日ぐらいの研修時間があっても良かったです。本当に貴重な研修を企画していただきありがとうございます。

- ・多くの医療従事者にセミナー情報の存在を広めてほしい。
- ・性に関することは、がん治療に関わらず、相談しにくい。がん治療が加わると、命の天秤にかけられ、さらに患者は相談しにくくなる。医療者から声をかけることも必要だが、看護師も声をかけにくい。今は相談できる環境が整っていないと感じる。まだ男性の看護師も十分でない中、女性が男性の性の相談にのるのは難しい。特に看護師は、男性にとって性的対象になることもあるため、女性看護師も声をかけることは勇気がいること。相談できる環境

ができていないと、時には怖いと思うこともあるかもしれない。相談できる、当たり前と思える環境を作ることが大事。患者が相談しやすく、医療者からも声をかけやすい環境。どうしたら環境を作れるのか。どういう環境が望ましいのか考えていきたいと思いました。子供の頃からのオープンな性教育も必要ではないかと思います。

・今回の講演はとても話しづらかったと思いますが、本心を見せていただいて、講演者に心より感謝しています。どんな時も真摯に向き合わなくてはいけない気持ちが引き締められました。